1996年度

フランス語学科シラバス

獨協大学

目次の見方

① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。

科目名の表記について

入学年度によって、科目名の異なる科目があります。

該当する入学年度は、科目名末尾のカッコ内に表示されています。表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。

正しい科目名で履修するよう、注意してください。自分の入学年度を対象としていない科目名での履修はできません。

人数制限についての注意

フランス語学科専門科目のフランス語部門 ——講読、作文、会話、時事フランス語、商業フランス語—— については、科目の性質上、余り多人数の授業はできません。したがって、教室の収容人員を越えた履修者がいる場合、あらかじめ担当教員の承諾が必要です。承諾が無いまま履修登録をしても単位は認定されませんので、必ず第一週の授業に出席し、人数制限の有無を確かめ、制限のある場合は承諾を得てから登録するようにして下さい。

目　　次

1994年度以降入学者対象

学科共通科目

「フランス語」部門

総合フランス語	1	Ch. Beaulieu	1
〃	2	M. 水林	1
〃	3	Ch. Pelissero	1
〃	4	Ph. Vanney	1
フランス語文章表現法	1	H. Derieppe	2
〃	2	S. Giunta	3
〃	3	M. 水林	4
〃	4	Ph. Vanney	5
和文仏訳	1	朝倉　剛	6
〃	2	一戸とおる	7
フランス語会話	1	H. Derieppe	8
〃	2	J. F. Doppia	9
〃	3	R. Floirac	10
〃	4	L. Fontaine	11
〃	5	S. Giunta	12
〃	6	L. Lattanzio	13
〃	7	B. Leurs	14
〃	8	Ch. Pelissero	15
〃	9	Y. Perrot	16
〃	10	Ph. Vanney	17
時事フランス語	1	一戸とおる	18
〃	2	伊藤幸次	19
商業フランス語	1	浅野信二郎	21
〃	2, 3	Ch. Beaulieu	23

「第二外国語」部門

英語Ⅲ—1		佐々木恵理	24
〃	2	白鳥正孝	25
英会話Ⅰ—1		P. Beland	26
〃	2	T. J. Fotos	27
〃	3	C. J. Poel	29
〃	4	J. M. Thurlow	30

英会話Ⅰ—5 ---------- L. Villeneuve -------- 31

学科専門科目

「フランス語学・文学」部門

フランス語学概論 ---------- 木下光一 -------- 33
フランス文学概論 ---------- 井村順一 -------- 35
フランス語史 ---------- 山田秀男 -------- 37
フランス文学史 ---------- 山内宏之 -------- 39
フランス語学各論 ---------- 小石悟 -------- 41
フランス文学各論 1 ---------- 鈴木道彦 -------- 43
〃 2 ---------- 横地卓哉 -------- 45
フランス語学講読 1 ---------- 青木一郎 -------- 46
〃 2 ---------- 山田秀男 -------- 47
フランス文学講読 1 ---------- 朝倉剛 -------- 49
〃 2 ---------- 井村順一 -------- 50
〃 3 ---------- 江花輝昭 -------- 51
〃 4 ---------- 筒井伸保 -------- 52
〃 5 ---------- 根本祐徳 -------- 53
〃 6 ---------- M. 水林 -------- 54

「フランス文化・社会」部門

フランス文化・社会概論 ---------- 根本祐徳 -------- 55
フランス事情 ---------- 藤田朋久 -------- 57
フランスの地誌 ---------- 伊藤幸次 -------- 59
フランスの歴史 ---------- 藤田朋久 -------- 61
フランスの思想 ---------- 若森榮樹 -------- 62
フランスの美術 ---------- (後期完結) 前川久美子 -------- 63
フランスの音楽 ---------- 松橋麻利 -------- 64
フランスの演劇 ---------- 江花輝昭 -------- 65
フランスの政治 ---------- 井上スズ -------- 67
フランスの経済 ---------- 千代浦昌道 -------- 69
フランス文化・社会各論 ---------- 青木一郎 -------- 71
フランス文化・社会各論B—1 ------- (前期完結) 井上兼行 -------- 73
〃 2 ------- (後期完結) 佐藤正之 -------- 75
フランス文化・社会講読 1 ---------- 井上スズ -------- 77
〃 2 ---------- 井上たか子 -------- 78
〃 3 ---------- 小石悟 -------- 79
〃 4 ---------- 竹内久雄 -------- 80
〃 5 ---------- 藤田朋久 -------- 81
〃 6 ---------- 横地卓哉 -------- 82
〃 7 ---------- Ph. Vanney -------- 83

目　　次

1993年度以前入学者対象

「フランス語」部門

フランス語講読	1	青木一郎	46
〃	2	朝倉　剛	49
〃	3	井上スズ	77
〃	4	井上たか子	78
〃	5	井村順一	50
〃	6	江花輝昭	51
〃	7	小石　悟	79
〃	8	竹内久雄	80
〃	9	筒井伸保	52
〃	10	根本祐徳	53
〃	11	藤田朋久	81
〃	12	山田秀男	47
〃	13	横地卓哉	82
〃	14	M. 水林	54
〃	15	Ph. Vanney	83
フランス語作文	1	朝倉　剛	6
〃	2	一戸とおる	7
〃	3	H. Derieppe	2
〃	4	S. Giunta	3
〃	5	M. 水林	4
〃	6	Ph. Vanney	5
フランス語会話	1	H. Derieppe	8
〃	2	J. F. Doppia	9
〃	3	R. Floirac	10
〃	4	L. Fontaine	11
〃	5	S. Giunta	12
〃	6	L. Lattanzio	13
〃	7	B. Leurs	14
〃	8	Ch. Pelissero	15
〃	9	Y. Perrot	16
〃	10	Ph. Vanney	17
時事フランス語	1	一戸とおる	18
〃	2	伊藤幸次	19
商業フランス語	1	浅野信二郎	21
〃	2, 3	Ch. Beaulieu	23

「フランス語学」部門

フランス語学概論　1 …… 根本祐徳 …… 84
〃　2 …… 江花輝昭 …… 84
〃　3 …… 鵜沢恵子 …… 84
〃　4 …… 松山恒実 …… 84
フランス語史 …… 山田秀男 …… 37
フランス語学特殊講義 …… 小石　悟 …… 41

「フランス文学」部門

フランス文学概論 …… 井村順一 …… 35
フランス文学各論　1 …… 鈴木道彦 …… 43
〃　2 …… 横地卓哉 …… 45

「フランス文化」部門

フランスの地誌 …… 伊藤幸次 …… 59
フランスの歴史 …… 藤田朋久 …… 61
フランスの哲学 …… 若森榮樹 …… 62
フランスの美術 …… （後期完結） 前川久美子 …… 63
フランスの音楽 …… 松橋麻利 …… 64
フランスの演劇 …… 江花輝昭 …… 65
フランス事情 …… 藤田朋久 …… 57
フランスの政治 …… 井上スズ …… 67
フランスの経済 …… 千代浦昌道 …… 69
フランス文化特殊講義 …… 青木一郎 …… 71
フランス文化特殊講義B－1 …… （前期完結） 井上兼行 …… 73
〃　2 …… （後期完結） 佐藤正之 …… 75

「第二外国語」部門

英語Ⅲ－1 …… 佐々木恵理 …… 24
〃　2 …… 白鳥正孝 …… 25
英会話Ⅰ－1 …… P. Berland …… 26
〃　2 …… T. J. Fotos …… 27
〃　3 …… C. J. Poel …… 29
〃　4 …… J. M. Thurlow …… 30
〃　5 …… L. Villeneuve …… 31

科　目　名	総合フランス語　(94年度以後)	担当者名	各担当教員

講義の目標		フランス語のより高度で多様な表現を学びます。
講義概要		各クラスにフランス人担当者が一人，週1コマの授業です。二年次まで使用した *Le nouveau sans frontières* のつづきを学習します。旧2年1組，2組，3組に所属した人は第2巻の前半部分を，旧4組の人は後半部分を学びます。ただし三年次のクラスは，二年次のそれとは基本的に異なります（4組を除く)。所属クラスを各自必ず確認するようにして下さい。
使用教材	テキスト	*Le nouveau sans frontières 2*
	参考文献	
評価方法		評価方法については各担当者から説明があります。
受講者に対する要望など		第一回目に授業の進め方などについて説明がありますから，必ず出席して下さい。

科目名	フランス語文章表現法　1　(94年度以降) フランス語作文　3　(93年度以前)	担当者名	H. Derieppe

講義の目標		L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer par écrit dans situations diverses.
講義概要		Le cours se déroulera en suivant la progression de la methode Espace 1 et 2, en fonction du niveau des élèves.
使用教材	テキスト	Espace　1
	参考文献	
評価方法		La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.
受講者に対する要望など		Une participation active aux cours sera nécessaire à l'obtention de l'unité de valeur.

科目名	フランス語文章表現法　2　(94年度以降) フランス語作文　4　(93年度以前)	担当者名	S. Giunta

講義の目標		フランス語の理解力向上には欠かせない「フランス及びフランス人を知る」ということをテーマに，より一層の知識と作文力を身につけることを目的とします。
講義概要		この授業は12のテーマ（首都，地方都市，文化，芸術，食の文化，余暇の過ごし方など）ごとに，フランスを掘り下げて考え，国土の美しいフランスとそこに住むフランス人への理解を深めます。3年生優先で20人までとします。
使用教材	テキスト	高橋秀雄ほか著　「プロムナード」朝日出版社
	参考文献	
評価方法		リポートによって評価し，出席状況も考慮します。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語文章表現法　3　(94年度以降) フランス語作文　5　(93年度以前)	担当者名	M. 水林

講義の目標		Oser écrire directement en français différentes sortes de textes sans passer par le biais de la traduction.
講義概要		Ce cours s'adresse aux étudiants qui désirent améliorer leur capacité de français à l'écrit. Des exercices de types très variés seront proposés à chaque séance avec pour objectif la rédaction de petits textes — lettres, résumés, compte rendus — en relation avec notre vie quotidienne.
使用教材	テキスト	Photocopies.
	参考文献	Un dictionnaire français. Par exemple, le *Dictionnaire du français langue étrangère niveau II*, ou bien le Dictionnaire *du français contemporain*. Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadaîshuppansha.
評価方法		1. Contrôle continue, ce qui signifie que les étudiants doivent participer au cours *chaque semaine*. 2. Test lors du dernier cours du 1er et du 2e semestres.
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語文章表現法　4　(94年度以降) フランス語作文　6　(93年度以前)	担当者名	Ph. Vanney

講義の目標		Savoir écrire en français avec logique et clarté.
講義概要		— Exercices variés en classe pour prendre conscience de l'ordre des mots dans une phrase, de la ponctuation, de l'ordre des phrases et des paragraphes dans un texte. Recherche des articulations, du plan. Exercices de résumé. — Une fois par semestre, chaque étudiant rédige une composition dont le sujet est libre. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.
使用教材	テキスト	Photocopies: les sujets concernent plutôt la société française.
	参考文献	— *Comment dire? Raisonner à la française*, Clé International. — *Un point, c'est tout!*, JP Colignon, Éditions du CFPJ. — *Le résumé (1. initiation)*, H. Sabbah, Hatier. — 3 livres de la collection Profil, Hatier, sur le sujet.
評価方法		Le grand devoir semestriel est noté.
受講者に対する要望など		Ce n'est pas un cours de traduction.

科目名	和文仏訳　1　(94年度以降) フランス語作文　1　(93年度以前)	担当者名	朝倉　剛

講義の目標		2年間の学習によって、フランス語への習熟度は或る程度のレベルに達しているという前提にたち、日常的、実用的な、あるいは文学的な仏作文の手引きとその実習を目標とする。仏作文学習の積極面は、およそ次の3点に集約されるであろう。 (1)　将来実社会に出て、作文能力を活かすことができる。 (2)　フランス語の原典の「読み」もいっそう深めることができる。つまり「解読作業」と「作成作業」とをつなごうという意識がもてる。 (3)　日仏文化の接触と交流とを促進することに貢献できる。
講義概要		1年間の授業計画は次の2つに大別できよう。 (1)　前期では、テキストを用い、日常的・実用的作文を実習し，フランス語の慣用的熟語表現の習得に重点を置く。それと平行して、初歩の課程では学ばない「文法の難所」(difficultés grammaticales) に目を向けさせる。 (2)　後期にはいっても実用文の学習は続くが、後半の7回ぐらいは、日本文学の仏語訳を読み、2つの言語の発想、表現の違いを検討し、さらに文学作品、エッセー、天声人語のようなコラム類を選んで、仏訳を試みるつもりである。
使用教材	テキスト	・大賀正喜著　『現代フランス語作文』(*Le français tel qu'on l'écrit*)　第三書房 ・プリント配布
	参考文献	・大賀正喜著　『現代仏作文のテクニック』　大修館 ・同上　『現代フランス語名詞活用辞典』　大修館 ・大賀・メランベルジェ共著　『和文仏訳のサスペンス』　白水社 ・泉邦寿著　『日仏表現の比較』　大修館 ・鷲見洋一著　『翻訳仏文法』上・下　日本翻訳者養成センター ・大橋保夫ほか著　『フランス語とはどういう言語か』　駿河台出版社
評価方法		評価は前後期各1回の試験と授業参加への熱意によって決定する。 ときどき各自の「試作」を提出してもらう。これも評価の基準のひとつとする。
受講者に対する要望など		授業に積極的に参加し，自分自身でかならず書いてみること。あたりまえのことだが，これ以外に上達の道はない。

科目名	和文仏訳　2　(94年度以降) フランス語作文　2　(93年度以前)	担当者名	一　戸　とおる

講義の目標		日本語の新聞記事を，対応する「Le Monde」の記事を参考に仏訳する。 フランス語の記事を熟読することによって，表現をパターン化・モデル化し，日本語のなかに，この表現パターン・モデルを見いだす練習をする。これによって，フランス語の表現能力を養う。 私たちの生活の様々な面に対応するように，対象とする記事の内容は可能なかぎり，多種多様であるようつとめる。
講義概要		「Le Monde」の記事のなかから，仏訳する際に使えそうな語彙・表現を探す作業をはじめに行う。次に，これらを参考に，日本語の記事を仏訳する。これを，担当した学生に板書してもらい，それを訂正・修正する。以上の流れに沿って，一つの記事を1・2週で仏訳してゆく。 短い日本語の記事（5・6行）を仏訳する小テストを，年間5・6回実施する予定である。
使用教材	テキスト	適宜コピー
	参考文献	大賀　正喜　『現代仏作文のテクニック』大修館書店 石井　洋二郎『時事フランス語の入門』白水社 小林　茂　　『新聞のフランス語』白水社
評価方法		授業への参加態度の積極性の有無，年間を通じて5・6回実施する予定の小テスト，ならびに，前記・後期の定期試験を総合して，評価する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 1	担当者名	H. Derieppe

講義の目標		L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer sans crainte dans des situations de communication diverses.
講義概要		Le cours se déroulera en suivant la progression de Nouveau Sans Frontières 2 en mettant bien sûr l'accent sur les exercices oraux. Des exercices et documents complémentaires seront ajoutés en fonction des besoins.
使用教材	テキスト	Le Nouveau Sans Frontières 2
	参考文献	
評価方法		La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.
受講者に対する要望など		Une participation active aux cours sera nécessaire à l'obtention de l'unité de valeur.

科　目　名	フランス語会話　2	担当者名	J. F. Doppia

講義の目標	フランス語会話の授業ですが，具体的な内容や，授業の進め方については，第一回目に明があります。参加希望者は必ず出席して下さい。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 3	担当者名	R. Floirac

講義の目標	Le français tel qu'on le parle. Vous avez l'intention de visiter ou de séjourner en France ou dans un pays Francophone ? Cette classe présentera 10 thèmes de la vie de chaque jour (transports, banque, etc) qui serviront de base à des conversations. Un étudiant préparé en vaut deux, il pourra faire un voyage utile et agréable. Ce cours débutera par l'écoute d'une cassette.	
講義概要		
使用教材	テキスト	H. Kurata. S. Giunta. *SANS ESCALE.* Ed. SOBI.
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 4	担当者名	L. Fontaine

講義の目標		FAIRE EXPRIMER CHAQUE ETUDIANT, A CHAQUE COURS, EN FRANÇAIS
講義概要		Notre manuel sera *Le Nouvel Espaces 2*. Nous comptons sur des étudiants dynamiques qui participeront assidûment aux cours, accompliront sans se faire prier la préparation demandée. Pour soutenir leur motivation, l'évaluation sera continue, ce qui signifie qu'il n'y aura pas d'exament final, ni en été ni en hiver.
使用教材	テキスト	*Le Nouvel Espaces 2*, Guy Capelle et Noëlle Gidon, Hachette F. L. E., Paris, 1995.
	参考文献	
評価方法		EVALUATION CONTINUE D'APRÈS LA PREPARATION DES EXERCICES DE CONVERSATION
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話　5	担当者名	S. Giunta

講義の目標		時代とともにフランスは変わりつつあります。話し言葉も日本語と同じく少しづつ変わっています。このような変化を若いフランス人の生活を通して学ぶことを目的とします。
講義概要		最新のビデオ教材を使い，フランス人のかかえている問題，日常生活，ファッション，ミュージックなどを映像を通して学んでいきます。3年生優先で25人までとします。
使用教材	テキスト	伊藤幸次ほか著　「サリュ・レ・ジュンヌ」　早美出版社
	参考文献	
評価方法		リポートによって評価し，出席状況も考慮します。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話　6	担当者名	L. Lattanzio

講義の目標	フランス語会話の授業ですが，具体的な内容や，授業の進め方については，第一回目に説明があります。参加希望者は必ず出席して下さい。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 7	担当者名	B. Leurs

講義の目標		Le cours est conçu de manière à familiariser les étudiants avec le français de tous les jours et dans le but de préparer à réagir à toutes les situations du quotidien. Il s'agira ensuite de perfectionner et de développer l'expression orale à partir des mécanismes grammaticaux de base.
講義概要		Chaque leçon propose une étude équilibrée de la COMPRÉHENSION et aussi de L'EXPRESSION à partir de: * Un dialogue de mise en situation. * Trois points grammaticaux. * Des exercices de réemploi écrits et oraux. Un large choix de documents audio et vidéo viendra enrichir et compléter le cours: documentaires, films et chansons.
使用教材	テキスト	"C'EST LA VIE!" II 『セラヴィ 2』 早美出版社
	参考文献	
評価方法		À la fin de chaque semestre aura lieu un contrôle écrit et oral des connaissances des étudiants. La participation active des étudiants dans le groupe-classe est souhaitée et sera également appréciée.
受講者に対する要望など		第一回目に授業の進め方などについて説明がありますから，必ず出席して下さい。

科目名	フランス語会話　8	担当者名	Ch. Pelissero

講義の目標		L'OBJECTIF DE CE COURS SERA DE VOUS FAIRE PARLER FRANÇAIS NORMAL DIRIEZ-VOUS …… MAIS COMBIEN D'ÉUDIANTS RESTENT SILENCIEUX DANS LES COURS DE LANGUE. CE COURS SERA UN ESPACE D'ÉCHANGES OUVERT À TOUS CEUX QUE LE CONCEPT DE DISCUSSION INTÉRESSE.
講義概要		LE COURS S'ARTICULERA AUTOUR DE VOS DÉSIRS. VOUS SEREZ LES MAÎTRES DE SON CONTENU, JE N'EN SERAI QUE L'ORGANISATEUR. VOUS SEREZ DONC LIBRES DE CHOISIR LE THÈME DE DISCUSSION POUR CHAQUE COURS.
使用教材	テキスト	SANS DOUTE UTILISERONS NOUS DES JOURNAUX SOUS FORME DE COPIES.
	参考文献	REGARDEZ DANS UN DICTIONNAIRE LA DÉFINITION DU MOT DISCUSSION (EN FRANÇAIS).
評価方法		LE SEUL CRITÈRE SERA VOTRE CAPACITÉ SOCIALE À ÉCHANGER DES POINTS DE VUE ET VOS CAPACITÉS LINGUISTIQUES À LES FORMULER.
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 9	担当者名	Y. Perrot

講義の目標		LES ÉTUDIANTS SERONT ENCOURAGÉS À S'EXPRIMER SUR LES SUJETS LES PLUS VARIÉS. NOUS FERONS NÔTRE LE PRINCIPE SELON LEQUEL UN BON APPRENTISSAGE NE SE FAIT PAS SANS PLAISIR.
講義概要		CE COURS SERA ÉGALEMENT PRÉTEXTE À UNE MEILLEURE CONNAISSANCE DE LA FRANCE CONTEMPORAINE.
使用教材	テキスト	NOUS TRAVAILLERONS À PARTIR DE PHOTOCOPIES OU DE VIDÉOS.
	参考文献	
評価方法		IL Y AURA UN EXAMEN EN FIN D'ANNÉE.
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 10	担当者名	Ph. Vanney

講義の目標		Arriver à s'exprimer oralement en français sur l'actualité sociale et politique française. Améliorer son vocabulaire passif et actif dans ce domaine.
講義概要		Dans la première partie de l'année, présentation d'exercices et de jeux qui permettent aux étudiants de s'exprimer, par exemple : devinettes, mots croisés géants, discussions sur des photos, bandes dessinées, etc. Puis, peu à peu, introduction d'exercices plus complexes : petits exposés, débats pour ou contre. Finalement, selon le nombre des étudiants, tentative de jeu de rôles. Le cours ne progresse pas en fonction de la grammaire et de ses difficultés mais du contenu des thèmes pour essayer d'aboutir à une utilisation, aussi naturelle que possible, du vocabulaire sociopolitique.
使用教材	テキスト	Photocopies.
	参考文献	Revues et journaux français et japonais.
評価方法		Cela dépend du nombre des étudiants : soit une note de participation soit un petit examen oral à la fin.
受講者に対する要望など		

科目名	時事フランス語 1	担当者名	一戸 とおる

講義の目標		私たちの生活を取り巻く様々な領域（政治，経済，文化，レジャー，など）について，概略的な知識を持ち，かつ，それぞれの領域に関して自らの意見を，専門的とはいかずとも，一般的に表現する（書く・話す）能力を養うことを目標とする。
講義概要		可能なかぎり多様な領域にわたって，「Le Monde」，「L'Evénement du Jeudi」，「Les Clés de l'actualité」，etc，の新聞・雑誌・その他の documents authentiques から抜粋した文章を材料にして，その扱っている内容，その文章に表れる語彙・表現の拡張，などについて問題にする。 また，同一の内容を扱った音声によるテクスト（主として，衛星放送で放映している *France 2* のニュース）を材料にして，上記と同じ作業をする。 なお，文章によって，理解しやすいものと理解しにくいものがあるが，前期は，比較的やさしいものを，後期は，やや難しいものを教材とする予定である。
使用教材	テキスト	適宜コピー
	参考文献	石井　洋二郎『時事フランス語の入門』白水社 小林　茂　　『新聞のフランス語』白水社
評価方法		授業への参加態度の積極性の有無，ならびに，前期，後期の定期試験を総合して，評価する。
受講者に対する要望など		

科目名	時事フランス語 2	担当者名	伊藤幸次

講義の目標		外国語を習得する時，普通日本人の場合，その能力は読>聞>書>話の順になります。母国語の場合，聞→話→読→書の順になるのですが，とりわけヨーロッパ語については，語順や文法構造の違いが障害になります。時事においても，幼児が言葉を覚える時のように聞くことから始めましょう。聞けないものを話すことはできません。特に聴覚は23才頃から急速に老化しますが，発音のための筋肉はいつでもトレーニング可能なのです。更に映像を利用して理解を深めましょう。まさに百聞は一見に如かずですから。
講義概要		原則として講義当日の朝の *France 2* のニュースを視聴します。これは前日の夜現地時間の7時からフランスで放映されたものです。全部は聞きとれなくとも，キー・ワードを手がかりに，映像の助けを借りて内容をつかむよう努力します。聞きとれたものは繰り返して発音します。穴埋め問題のような文法的作業はできるだけしません。他にフランスの中高生向け時事問題解説紙から始めて，一般向け日刊・週刊紙誌の購読もします。
使用教材	テキスト	*France 2*（教室で放映）
	参考文献	*Clês de l'Actualité.* *L'Evénement du Jeudi.* *Le Monde.*
評価方法		平常点。教室での対応と提出物による。
受講者に対する要望など		28名限定。3年生優先

科目名	商業フランス語 1	担当者名	浅野 信二郎

講義の目標		経済関係記事や商業文を理解し，口頭での実務的連絡も出来るように，講師の実務経験に基づいてのフランスでの生活，日本での実務上での注意事項も説明し，毎時間の練習によって，引き合い程度の簡単な商業文を書けるようにすることを目的とする。
講義概要		下記の教科書と共に多くのプリント類（実務に使われたものや，他の参考資料）を配布し，商業・経済関係の用語や商業文の構成要素を説明し練習の繰り返しによって，簡単な商業文を書けるようにする。 フランスでの生活や実務環境を含む文化についても考える。
使用教材	テキスト	Le français du secrétariat commercial 著者：M. Dany-J. Gellot-M. L. Parizet　発行元：Hachette
	参考文献	大阪日仏文化センター編『ビジネス・フランス語』（白水社）
評価方法		授業への出席，毎授業中の小練習の評価，宿題の提出期限の遵守度と成績評価（50%）と試験の結果（50%）によって判定する。
受講者に対する要望など		受講者は十分に予習，復習する意欲を持ち，毎時間の講義には和仏及び仏和辞書を持参（授業中の小練習のため）すること。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	授業の進め方について説明し，受講希望者の受講目的を調べ，学力レベルをチェックする。
2	Situation 5 : Rechercher un emploi 及び資料プリントの説明をして，履歴書（curriculum vitae）を書く練習をする。
3	Situation 1 : En lisant des revues...に従って prise de contact の意味と NF Z 11.001［書式］の説明。 Présenter votre lettre comme en France (p.4) の和訳。
4	前回の和訳の結果に基づいて，手紙の各要素についての詳細説明。 履歴書の講評。
5	Dans la vie de chaque jour ... (pp 7 & 8) Situation 2 : Organiser des entrevues［Compréhension の練習］P. 10 のテキストの和訳
6	L'en-tête の説明 前回の和訳の結果に従って補足説明。電話での交信の内容を確認する手紙を書く。
7	フランスの電話事情。Dans la vie de chaque jour ... [pp 13 & 14] の練習。 Comment préciser au téléphone [p. 78]
8	Situation 3 : Ouvrir de nouveaux marchés 顧客や供給業者を捜す情報収集の方法　Lettre-circulaire を書く。
9	La vedette の詳細説明 Télégramme-Télex-FAX（télécopie）の交信コスト
10	Chapitre 2 Situation 1 : Trouver un fournisseur 決済条件，貿易の場合の建値の種類の説明　p. 27 のテキストの和訳
11	日本語での商業文の言い回し等の説明 呈示すべき要件　引き合い又は売り込みの手紙
12	前期試験 夏期休暇中の宿題を与える
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期試験の結果の講評 提出された宿題についての講評　Dans la vie de chaque jour ... [pp 31 & 32]
2	Situation 2 : Demander des précisions télex の書き方　発信したテレックスの確認の手紙
3	受信者の個人名を入れた vedette フランスの国内移動手段　旅程の作成
4	Situation 3 : Demander des modifications 購入条件決定の要素の説明，建値の再説明，書式内の les références　購入申し入れの手紙
5	Situation 4 : Proposer des marchés rabais, remise, escompte, ristourne の区別　Réglement à termes に関する資料の和訳
6	Règlement à termes の説明 Situation 5 : Rechercher un emploi　3 行広告の読み方と和訳
7	2. Passer, recevoir, exécuter une commande Chapitre 1 Situation 1 : Fournir des conditions générales　想像した製品の fiche signalétique の作成
8	Présenter votre lettre comme en France 5. L'objet [p. 55], 6. Les pièces jointes
9	Situation 2 : Fournir des conditions particulières sur les prix traite（支払い約束手形と支払い請求手形）， 7. L'appel　支払条件に関する手紙
10	Situation 3 : Fournir des conditions particulières sur les transports　輸送手段について　8. Le corps de la lettre (1)　問い合わせの手紙
11	Chapitre 2 Demander des modifications　Situation 1 : Modifier la nature des marchandises commandées　8. Le corps de la lettre (2)　書き出しの選択
12	フランスのホテル，料理，ワイン 食事のコースの作成
備考	

科目名	商業フランス語　2，3	担当者名	Ch. Beaulieu

講義の目標		商業フランス語の授業。具体的な内容や，授業の進め方については，第一回目に説明がありますので，必ず出席して下さい。
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		商業フランス語2と商業フランス語3を重複して履修することは出来ません。

科目名	英語　Ⅲ—1	担当者名	佐々木　恵　理

講義の目標		欧米女性が日本人男性と仕事をしてゆく上で起こるセクシュアル・ハラスメントに類する体験を「異文化」の視点を交えながら読み進めてゆきます。テキストは必ずしもセクシュアル・ハラスメントに限定された内容ではありませんが，授業では日／欧米という「異文化」接触によってこの問題がより複雑化することの意味を探ってゆこうと思います。読み進めてゆくうちに，「国際化」とか「英語を学ぶこと」，「日本語を話すこと」に対する新しい意味を見い出せるのではないかと思います。「英語を」読むのではなく，「英語で」読むことを目的とします。
講義概要		ある程度の共通認識に立つために，初回はセクシュアル・ハラスメントについての概要をお話します。 基本的にはテキストを精読してゆきますが，適宜ビデオを観たり，他の文献や情報も読む予定です。また，人数にもよりますが，ディスカッションや発表，小論文の時間をとりたいと思っています。
使用教材	テキスト	Christalyn Brannen, *Doing Business with Japanese Men* (Stone Bridge Press)
	参考文献	随時，授業中に提示します。
評価方法		前期・後期のテストと授業の平常点（和訳・発表の評価など）で決めます。また年間授業数の⅓以上を欠席するものは原則として単位を認めません。
受講者に対する要望など		予習をする気のない者は困ります。意見交換ができるような積極的な態度で，授業を共につくってゆこうとする姿勢の学生を期待します。

科目名	英語 Ⅲ－2	担当者名	白鳥正孝

講義の目標		ワーズワス（W. Wordsworth 1770—1850）の「水仙」などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養う。又英詩は、マザー・グースと共に英語文化のエッセンスである。これらエッセンスに少しでも触れることによって、英語そのものの持つ奥行を少しでも身につけることを目指す。
講義概要		初めは導入として詩形の話をし、ついで易しい詩（マザーグース）を読む。そしてデラ・メア（W.De La Mare 1873—1956)、ディッキンスン（E.Dickinson 1830—86）を読んだ後、ロマン派の詩人達（R.Burns 1759—1796, W.Blake 1757—1827, ワーズワス、S.T.Coleridge 1772—1834, G.G.Byron 1788—1824, J.Keats 1795—1821）を読む。
使用教材	テキスト	『マザー・グースと美しい英詩』 北星堂 1987
	参考文献	教室でそのつど指示する。
評価方法		前後期ともテストを課す。詳細は教室で指示する。
受講者に対する要望など		受身でなく自ら参加する気持ちで臨んでほしい。

科目名	英会話 Ⅰ－1	担当者名	P. Beland

講義の目標		
講義概要	講義では60％は日常会話のための勉強をします。あと40％では様々な話題を取りあげ、もうすこし専門的な会話を勉強します。政治、経済、地理、宗教などを話題にして、基本的な語彙を身につけるようにします。生徒の皆さんに望むことは、どのような話題についても興味をもち、心を開いて勉強して欲しいと思います。	
使用教材	テキスト	*LIVELY ENGLISH CONVERSATION* (Beland Associates 発行)
	参考文献	その他、私が用意する資料
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	英会話 I—2	担当者名	T. J. Fotos

講義の目標		This course is designed to improve the basic skills of hearing, speaking, writing, and reading. The cultural and contextual aspects of language learning and reproduction will be emphasized through selected videos, reading, movie reviews and class discussion.
講義概要		The significant segments of each video section will be introduced, discussed, viewed, and then practiced in class. Small group guided discussion will be encouraged. There may be additional topics covered as determined by the level and interests of the students.
使用教材	テキスト	A textbook, based on the videos, will be determined later.
	参考文献	Selected video scripts will be available in addition to various exercises and practice sections will be used.
評価方法		Assessment of students will be based on two tests as well as more frequent reports and class participation and good attendance.
受講者に対する要望など		Please attend class prepared in advance for the weekly lesson. Active participation is expected.

前期

週	主　要　テ　ー　マ
1	Introduction and organization and interview evaluation
2	Topic and discussion
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	Review
8	Topic and discussion
9	〃
10	〃
11	〃
12	Examination
備考	

後期

週	主　要　テ　ー　マ
1	Topic and discussion
2	〃
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	Review
8	Topic and discussion
9	〃
10	〃
11	Summation of topic covered and final review.
12	Final examination.
備考	

科目名	英会話　I－3	担当者名	C. J. Poel

講義の目標		The goal of Eikaiwa 1 is to familiarize the students with communicatio strategies and using English as a social tool.
講義・概要		This course will integrate listening, reading, and speaking. Students will wor in small groups studying and discussing dialogs on various cultural topics, suc as careers, traveling, and education. *All discussions will be in English!!* You wi be expected to do homework every week to prepare for the class discussions.
使用教材	テキスト	*Jet Stream Exchange* by Christopher Jon Poel (Shohakusha)
	参考文献	All students will be expected to have a dictionary.
評価方法		The final grade in this course will be determined by (1) attendance [20%], (2 participation during class activities [40%], (3) homework [20%], and (4) test [20%].
受講者に対する要望など		

科目名	英会話　I－4	担当者名	J. M. Thurlow

講義の目標		To enable the students to learn how to interact with other people in a natural way, using both verbal and non-verbal communication.
講義概要		Using pair and groupwork, the students will learn for themselves how to take the English which is inside their heads and put it to good use, both in the dialogues in the text, and also in situations taken from real life.
使用教材	テキスト	Teamwork 2. Challenges in English. Seido Language Institue.
	参考文献	
評価方法		Active and regular participation in classwork will be the main basis for the awarding of grades.
受講者に対する要望など		第一回目に授業の進め方などについて説明がありますから，必ず出席して下さい。

科　目　名	英会話　Ⅰ－5	担当者名	L. Villeneuve

講義の目標		このコースに登録する為に 誰もが充分な英語の文法の知識を持って居るという事は必要ありません。 此のコースの目的は色々な方法を通じて、生徒は幾らか英会話が出来る様になるという事か 大事なのです。 どうぞ自信を持って参加する様に。
講義概要		この講座は英会話の初心者向けにデザインされました。講座の方針は、その場で覚えた単語 表現を、即実践に移すというものです。講座は、NHK のラジオ講座を参考に進めます。即 戦力を伴った実用的英会話のレベルアップを図ります。どうぞ気軽にご参加ください。
使用教材	テキスト	教材は、最初の授業の時発表します。
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語学概論（94年度以降）	担当者名	木下光一

講義の目標		2年間で，現代フランス語のいろいろな面からの分析と，現代フランス語の文法規則が現在の形になるまでの歴史的経過とを，日本語・英語などとの対比も交えながら概説する予定であるが，これにより，フランス語学を選んで大学院進学を考えている学生には必須の予備知識を与えること，またその他の学生にはフランス語そのものに対する知的好奇心を呼び起こすことが目標である。
講義概要		今年度は現代フランス語の仕組みを解明することが中心で，発音の面（音声学・音韻論）形の変化の面（形態論），構文の面（統語論），意味と構文との係わりの面（意味論）が順次対象となる。人間が物理的音声という手段によって相手に複雑な意味を伝えられるのはなぜか。そういう疑問から出発してフランス語という言語の構造を概観してみようというのが，この1年の話である。具体的内容については，年間講義予定を参照のこと。
使用教材	テキスト	ほぼ毎回私製の要点メモをコピーして配布。
	参考文献	講義中に随時指示するほか，質問に応じて個人的にも教示する。
評価方法		前期末，後期末とも試験を行う。2・3題で論述式。配布コピー，辞書，参考書，ノーなどすべて持ち込み自由。
受講者に対する要望など		自ら考えをまとめて論じなければならぬ出題であるから，講義内容の精確な理解と，全体を一貫するとらえ方がともに必要。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	日本語・フランス語の具体例をあげて，物理的世界と言語の世界との根本的ちがいを説明する。連続と不連続，言語単位，言語記号の性質。
2	言語音の物理的分析と調音音声学的分析。フランス語の調音と国際音声字母の概説。フランス語母音の発音練習方法。
3	フランス語の半母音と子音。フランス語の発音の特徴，とりわけ英語とのちがい。日本語・英語の影響を発音に残さぬための注意。
4	物理的（音響学的）特性と調音法との関係。両者がある種の変換によって結びつくところに，二つの世界のつながりが見えてくる。
5	フランス語の音節構造，音節の切れ目，フランス詩法と音節，アクセントと母音の長さ。以上5回の予備知識をもとに，音韻論の立場に移ろう。
6	音声面での言語の世界の特徴。音韻論的単位とは何か，最小対，1音素か2音素かの決定基準。
7	変異体（ヴァリアント）ないしは異音の問題，自由変異体と条件変異体の区別。音韻論の立場から見たフランス語。
8	フランス語の口母音のうち，自由変異体に向かうものと条件変異体に向かうものについて。いわゆる「無音のe」（e muet）をどう扱うか。
9	鼻母音のうち，自由変異体に向かうもの。音韻論の立場から鼻母音をどう考えるべきか。生成音韻論の視点。
10	母音の長短をどう考えるべきか。三つの半母音はすべて独立の音素か，それとも三つの母音の条件変異体か。
11	子音の自由変異体。いわゆる「有音のh」（h aspiré）をどう考えるべきか。フランス語の子音音素体系を組織立てるための考え方。
12	フランス語の音素体系を図示することを試みる。弁別特徴の組み合わせを表示した立体図：子音体系，母音体系。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	音素と意味との接点である記号，記号素。記号素の形態変化，不連続な記号素，分離できぬ記号素。言語による意味の切り取りの差。
2	動詞の形態変化（活用）。直説法現在形語幹の変化は，人称と単数・複数の別に応じ，わずか4種類（あるいはそれ以下）に帰着させられる。
3	上記動詞語幹の変化の機構は，意外に少い数の規則の組み合わせとして分析できる。潜在する過程という考え方と生成音韻論。日本語との対比。
4	記号素から統語論へ。部分疑問文の主語倒置とPourquoi...?の問題。一見極めて奇妙な制約。制約を生み出すものは何か。
5	Que...? はなぜ単純倒置以外は不可能なのか。Pourquoi...?はなぜ複合倒置以外は不可能なのか。
6	laisser＋不定詞と目的補語代名詞。不定詞の目的語である代名詞を，ある場合だけ laisser の目的語の扱いにしなければならないのはなぜか。
7	普通の人称構文に用いられる一部の自動詞に，なぜ非人称構文があるのか。その厳しい制限条件と英語の類似現象。共通する誘因は何か。
8	フランス語では副詞的代名詞などと呼ばれるENは唯一のものか。直接目的補語の名詞部分のみに代るENと，de＋定名詞句に代るEN。
9	一見同じように不定詞を従えるespérer, vouloir, sembler, pouvoirなどは，すべて構文上同じ性質を持つと言えるか。
10	語の基本的意味が統語上の制約にいかなる影響を及ぼすか。不定形容詞の意味と構文，運動の動詞の意味と構文。類義語の意味の差と構文。
11	動詞の意味の完了性・未完了性と状況補語あるいは時称形との共起上の制約。動詞の意味のタイプと時制との複合効果。
12	統語上の制約から類義的形容詞の意味の差を見出す。具体的状況での使用の可能性から前置詞の基本的意味をとらえる。本年度講義のまとめ。
備考	

科目名	フランス文学概論	担当者名	井村順一

講義の目標		近代フランス語形成期にあたる17世紀の文学作品を概観し，それらが言語文化史上どのような位置を占めるかを検討する。
講義概要		17世紀という時代の特徴をつかんだうえで，講義予定欄に名前をあげた作家たちの業績を説明する。随時フランス語のテキスト抜粋を用いるが，初学者にも理解できるように解説する。なお受講者の理解度に応じて講義予定の進度・内容を若干変更することもありうる。
使用教材	テキスト	適宜プリントを使用する。
	参考文献	講義の内容に応じそのつど指示する。
評価方法		各学期末に，各自の見解を問う論述式の筆記試験を行う予定。
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1 2 3 4	〈時代の概観〉　近代フランス語の位置づけ。政治・文化史上の概観。詩人＝文法家マレルブ。「アカデミー・フランセーズ」。言語と社会制度との関係。
5 6 7 8	〈文芸サロンとその周辺〉　サロンの成立過程。サロンと文学との関係。「プレシオジテ」の問題。バロック小説。
9 10 11 12	〈ルイ 13 世時代・摂政時代〉　デカルト，コルネイユ，パスカル。文構成の工夫。
備考	

後期

週	主要テーマ
1 2 3 4 5	〈劇文学の意味〉　コルネイユ（つづき）。モリエールの喜劇。ラシーヌの悲劇。
6 7 8	〈古典期の作家たち(1)〉　ボワロー，説教家たち，ラ・フォンテーヌ。
9 10 11	〈古典期の作家たち(2)〉　セヴィニェ夫人，ラ・ファイエット夫人。「プレシオジテ」の去就。
12	〈結論—17 世紀文学の意味〉
備考	

科目名	フランス語史	担当者名	山田秀男

講義の目標		フランス語の文法を学んでも，何故そうなるのか分からないことが少なくない。例えば，travail の複数は travaux だとはいっても，何故そうなるのかは誰も教えてくれないだろう。現代フランス語が形成されていく過程を見ることによって，こうした疑問を解明し，フランス語に関する知識と理解を一段と深めることを目指す。
講義概要		フランス語の母体であるラテン語から出発し，さまざまな時代の多くの人びとの努力によって，現代フランス語が形成されるまでの主要な流れを概観する。 各時代のフランス語の特徴を理解するため，まず，それぞれの時代の歴史的背景・社会的状況を概観した後，その時代のフランス語を，語彙，発音と綴り字，文法・統辞論，といった具体的な面から検討する。そのあとで，各時代を代表する著作家の作品を取り上げて，その時代のフランス語の文章の実例を見る。
使用教材	テキスト	山田秀男著『フランス語史』，駿河台出版社
	参考文献	講義中に，必要に応じて指示し，紹介する。
評価方法		評価は，出席状況と定期試験またはレポートによる。
受講者に対する要望など		出席を重視し，出席点を高くする。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	1年間の講義方針，講義内容，授業形態などの説明はもちろんのこと，参考文献案内から評価に関することまでの全般にわたり，受講の決定に役立つあらゆる情報を提供する。
2 3	―古典ラテン語から俗ラテン語へ― ローマ帝国とガリアとの関係を中心に，歴史的背景を概観したのち，フランス語の母体であるラテン語の特質を見る。 つづいて，古典ラテン語と俗ラテン語，さらにロマン語についての概念を把握する。
4 5 6	―古フランス語― まず，古フランス語の歴史的背景や社会的状況を概観する。つづいて，古フランス語の語彙，発音，綴り字，文法・統辞論について学び，古フランス語の具体像を把握する。 実際の古フランス語の文例として，古フランス語による代表的作品である『ローランの歌』と『オーカッサンとニコレット』を引用し，古フランス語の特徴を確認する。
7 8 9	―中期フランス語― ここでは，中期フランス語の前半期を取り上げる。まず，その時代である十四・十五世紀の歴史的背景・社会的な状況を概観する。 つづいて，この時代のフランス語の語彙，発音，綴り字，文法・統辞論などの特徴を学び，中期フランス語（前半期）の具体像を把握する。 この時代のフランス語の実例として，フロワサールとヴィヨンの作品を引用して，当時のフランス語を，散文と韻文の両面から検討する。
10 11 12	ここでは，中期フランス語の後半期を扱う。この時代は十六世紀で，フランスのルネッサンス期にあたり，その歴史的背景・社会的な状況はこれまでより以上に言葉と大きくかかわっていることを見る。 時代背景を通観したのち，この時期のフランス語の語彙，発音，綴り字，文法・統辞論を検討し，その具体像を把握する。 この時代のフランス語の実例として，デュ・ベレーとモンテーニュの文章を引用し，検討する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1 2 3	―古典フランス語― まず，十七世紀のいわゆる古典フランス語の時代の歴史的背景や社会的状況を，言語との関連において，通観する。 つづいて，古典フランス語の語彙，発音，綴り字の特徴を見たのち，文法・統辞論を，現代フランス語と比較しながら，検討する。 古典フランス語の実際を，ヴォージュラとパスカルの引用によって見るとともに，現代フランス語との違いを検討する。
4 5 6	―十八世紀フランス語― 十八世紀の時代背景を通観し，言語の面からこの時代の傾向と特色を見る。つづいて，十八世紀フランス語の語彙，発音，綴り字，文法・統辞論を概観し，その特徴を把握するとともに，現代フランス語との差異を検討する。 ヴォルテールとルソーの引用によって，十八世紀フランス語の実際を見るとともに，現代フランス語との異同を検討する。
7 8 9	―十九世紀フランス語― 十九世紀フランス語の時代背景を通観し，言語との関連において，この時代の特徴を把握する。 つづいて，十九世紀フランス語の語彙，発音，綴り字，文法・統辞論を概観し，その特徴を探るとともに，この時期に生まれた新しい学問である言語学にも触れる。 十九世紀のフランス語に大きな影響を与えたユゴーとリトレの引用を読み，その特質を探る。
10 11 12	―現代フランス語― 第一次世界大戦後の時代背景・社会状況を，言語との関連において概観する。つづいて，現代フランス語，とりわけ第二次世界大戦後のフランス語の特徴を，語彙，発音，言語レベルなどの面から検討し，現代フランス語の特質と変化の傾向を探る。 最後に，全体のまとめと，質疑応答による補足説明を行う。
備考	

科目名	フランス文学史 (94年度以降)	担当者名	山内宏之

講義の目標		一中世から16世紀にかけてのフランス文学の思潮，更に17世紀古典主義文学に至るフランス文学の流れを講義形式で授業を行う。
講義概要		1 16世紀の概観。 2 文芸と宗教におけるルネッサンス。 3 フランソワ・ラブレー。 4 ロンサールとプレイヤード。 5 内戦時代の文学とモンテーニュ。 6 17世紀の文学，マレルブの詩の改革。 7 合理主義とデカルト。ピエール・コルネイユ，パスカル。 8 ジャンセニスムとポール・ロワイヤル。 9 ラ・ロシュフーコー，ラ・ファイエット夫人，ボワロー，モリエール。 10 ラシーヌ，ラ・フォンテーヌ，ボシュエ。
使用教材	テキスト	G. Lanson; Histoire de la Littérature Française（コピーして配布する場合もある。）但し，あくまでも引用するに留める。
	参考文献	『フランス文学史』響庭孝男ほか：白水社 『フランス文学史』ランソン・テュフロ。中央公論社 その他，講義中指示する。
評価方法		前後期2回の試験による。第1回目の授業の時にすべて指示する。
受講者に対する要望など		欠席しないこと。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	中世の崩壊，フランソワ・ヴィヨン
2	同上
3	劇文学の開花，宗教劇と俗劇，「パトラン先生の笑劇」 イタリヤの発見と16世紀
4	同上
5	マルグリット・ドゥ・ナヴァールと「七日物語」 クレマン・マロ
6	人生愛とフランソワ・ラブレー，ラブレーとその作品，「ガルガンチュワ物語」ほか
7	ロンサールとプレイヤード。ロンサール。 ミシェル・ドゥ・モンデーニュ。
8	同上
9	同上
10	内戦時代の文学とモンテーニュ。
11	17世紀の文学，マレルブの詩の改革。
12	合理主義とデカルト。ピエール・コルネイユ，パスカル。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ジャンセニスムとポール・ロワイヤル。
2	同上
3	同上
4	同上
5	ラ・ロシュフーコー，ラ・ファイエット夫人
6	同上
7	ボワロー，モリエール
8	同上
9	ラシーヌ，ラ・フォンテーヌ。
10	同上
11	ボシュエの文体と論理。
12	作家としてのフェヌロン。
備考	

科目名	フランス語学各論　(94年度以降) フランス語学特殊講義　(93年度以前)	担当者名	小石　悟

講義の目標	この授業の目的は次のとおりです。 1　欠けている文法を補う。 2　言語学の基礎的な概念を身につける。 3　学んだ文法を使って文を書いてみる。	
講義概要	まだ十分に習得していない文法項目を取り上げながら，出来るだけ最近の言語理論（特にénonciationの理論）を使って説明します。全ての文法項目を取り扱うことは不可能なので，理論的な文を書くために必要な項目を中心に進む予定です。冠詞，アスペクト，テンス，articulateurs，原因・目的・譲歩の表現，などを考えていますが，受講者の希望によって変更することも可能です。最後に，どの場合でもexercicesや作文によってより確実に使えるようにしたいと思います。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	年何回かの提出物による。	
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文学各論　1	担当者名	鈴木道彦

講義の目標		ジャン・ポール・サルトルの劇作を中心に，第2次世界大戦から1960年代までの演劇とフランスの状況を考えるのが，この講義のねらいです。それと同時に，「演ずる」ということの意味，日常生活における演技の問題，その哲学的な基礎，演劇における想像力の役割，演劇と現代社会のつながり，などについても，考察していくつもりです。
講義概要		最初にサルトルの生涯をざっと紹介するとともに，第2次世界大戦後の世界における彼の地位を説明します。ついで，大戦中にドイツの捕虜収容所で始まった彼の演劇への関心に沿い，一つ一つの作品をとり上げて，それを解説しながら，その重要な部分をフランス語で読んでいきます。「状況の演劇」と呼ばれる彼の方法を多角的に浮かび上がらせながら，演劇や虚構の問題を考えてもらう予定です。
使用教材	テキスト	コピーを配布します。
	参考文献	フランシス・ジャンソン『サルトル』（人文書院） 鈴木道彦『サルトルの文学』（紀伊国屋書店） 『サルトル対談集Ⅰ』（人文書院）
評価方法		前期は筆記試験，後期はレポート提出の予定。
受講者に対する要望など		翻訳でよいから，サルトルの芝居をたくさん読むことが望ましいです。とり上げる作品の大部分は，『サルトル全集』（人文書院）で訳が出ています。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	1年間の講義予定の説明。受講生への諸注意，要望など。
2	現代世界におけるサルトルの位置。彼のたどった軌跡の説明。主な作品の紹介。
3	最初の作品『バリオナ』(本邦未訳)。それが作られた状況。キリスト生誕劇と抵抗劇の結びつきについて。
4	『バリオナ』のつづき。テクスト読解。
5	『バリオナ』のつづき。テクスト読解。
6	『蠅』と，ナチによる占領下のパリ。自由と宿命について。
7	『蠅』のつづき。テクスト読解。
8	『出口なし』の解説。サルトルの思想のなかで,「他人」という問題の占める位置。
9	『出口なし』のつづき。テクスト読解。
10	戦後のサルトルと『汚れた手』の問題点。『汚れた手』とサルトル作の映画との関係。
11	『汚れた手』のつづき。テクスト読解。
12	映画『賭はなされた』を観る。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期のまとめと，後期の講義予定の説明。1950年代の世界について。
2	『悪魔と神』が書かれた状況。
3	『悪魔と神』のつづき。テクスト読解。
4	『悪魔と神』のつづき。テクスト読解。
5	『キーン』の意味するもの。俳優とは何者か。
6	『キーン』のつづき。テクスト読解。
7	『キーン』のつづき。テクスト読解。
8	『アルトナの幽閉者』はどうして生まれたか。アルジェリア戦争と状況劇の問題。
9	『アルトナの幽閉者』のつづき。テクスト読解。
10	『アルトナの幽閉者』のつづき。テクスト読解。
11	演劇と，それ以外のジャンルの関係。サルトルのドラマチックな思想における演劇の役割について。
12	全体のまとめ。
備考	

科目名	フランス文学各論 2	担当者名	横地卓哉

講義の目標	スタンダール，バルザック，フローベール，ゾラ ——19世紀フランス小説研究序説—— 小説という形式の文学に親しむ。	
講義概要	19世紀のフランスを代表する4人の作家をとりあげ，小説という文学形式について一緒に考えてみたいと思います。作品としては映像化されているもの（*Le Rouge et le Noir*, *Le Colonel Chabert*, *Madame Bovary*, *Germinal*）を選び，ビデオも活用していきます。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	第1回目の授業で主なものを紹介し，あとはそのつど指示します。
評価方法	2回のレポート，平常点など。	
受講者に対する要望など	ビデオを見てよしとせず，実際に作品を読んでください。もちろん翻訳でかまいません。	

科目名	フランス語学講読　1　(94年度以降) フランス語講読　1　(93年度以前)	担当者名	青　木　一　郎

講義の目標		フランス語の学習も基礎的な文法の勉強から始めて2年間で一応の水準に達したものと思います。更にフランス語の力を向上させるために，フランス語の文体の勉強をしたいと思います。文体といっても小説の文章を分析しようなどと云うのではありません。幼児語や俗語から，文学的な表現まで，口語表現から文学的な描写まで，フランス語による表現にはいかなるものがあるか，全般に亘って勉強して見ましょう。このテキストは1974年に出版されたものですが，基本的なものを扱ったテキストですから充分現在でも有益なものと思います。
講義概要		このテキストは第1部が文体の基礎知識，第2部が作詩法の基礎，第3部がフランス語の歴史の概要の3部から成り立っています。本年はその第1部を読んで行くつもりです。50頁程のテキストですから充分1年間で読み通せると思います。
使用教材	テキスト	H.Bonnard : Notions de Style, de Versification et d'Histoire de la langue française (SUDEL)（プリント）
	参考文献	松原秀治，松原秀一『フランス語らしく書く』(白水社) 朝倉秀雄『フランス文法事典』(白水社)
評価方法		評価は，前期後期とも定期試験期間に行うテストによって決定する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語学講読　2　(94年度以降) フランス語講読　12　(93年度以前)	担当者名	山田秀男

講義の目標		この講読の授業で目標とするところは，ただ一つである。それは，「辞書を引けば，どんなフランス語の文でも読める」ような力をつけることである。
講義概要		上記の目標を達成することは容易ではない。これに一歩でも近づくためには，着実な努力を積み重ねていく以外に道はない。 最初は，勉強の仕方，問題点の調べ方，どのような文献や辞書があり，それらをどのように利用すればよいか，といったことを中心に質疑応答なども交えて，疑問点を残さないようにして進めていき，次第に本格的な読解へと入っていくようにしたい。
使用教材	テキスト	M.-N. GARY-PRIEUR : *De la grammaire à la linguistique*, 2e éd., 1985, Paris, Armand Colin.
	参考文献	必要に応じて，指示し，紹介する。
評価方法		年に何回か担当してもらい，それを中心にした平常点と出席状況とを加味して評価する。
受講者に対する要望など		フランス語の読解力をつけたい者を歓迎する。 なお，四月の最初の授業に出席しなかった者の登録は，原則として認めない。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1 〜 12	『文法から言語学へ』と題されたこのテキストは，文法的な考え方と言語学的な考え方を比較・紹介しながら，文法から本格的なフランス語学の入門へと導いていく内容であり，第一部と第2部に分かれている。 二年間で全体を読み終える予定なので，一年目は，第一部を読むことになる。さらに，この第一部は，四つの章からなっているので，前期は，ほぼ，第一章と第二章を読むことになるであろう。 なお，一回の授業でどれだけ進むかをあらかじめ決めておくようなことはせずに，十分な時間をかけて，丁寧に，とりわけ初めのうちはゆっくり，読んでいくようにしたい。つまり，量より質を重視する方針である。 ちなみに，第一章のタイトルは，「勉強の道具：文法書と辞書」であり，第二章のタイトルは，「文の定義」である。
備考	

後期

週	主要テーマ
1 〜 12	後期は第一部の後半，すなわち第三章と第四章とを読む。 第三章のタイトルは，「文と発話」であり，第四章のタイトルは，「容認可能な文とその他の文」である。
備考	

科目名	フランス文学講読　1　(94年度以降) フランス語講読　2　(93年度以前)	担当者名	朝倉　剛

講義の目標		近代ヨーロッパ思想，とりわけ大革命の原点となるフランス十八世紀啓蒙思想について，幾人かの作家のテキストを選び，厳密に読解する。この時期のフランス語は，現代フランス語とそれほど距ってはいないが，それでも語義，語順，時制の用法など，やはり調べるべきことがすくなくない。受講者は仏仏辞典の使用に親しむとともに，時代背景にも深い関心をもってほしい。
講義概要		十八世紀思想家のなかでも，ヴォルテール，ルソーに重点を置く予定である。 授業は，全員がかならず予習してきて，輪読形式をとるが，年に数回は，語学的あるいは文学的な論点について，質疑応答，発表の形式を加え，単なる訳読形式を脱したいと思っている。
使用教材	テキスト	・J.-J. ルソー『孤独な散歩者の夢想』　白水社 ・そのほか教材として，プリントを多用する。
	参考文献	*Petit Robert 1 - Dictionnaire de la langue française* 朝倉秀雄著『フランス文法事典』白水社 朝比奈誼著『フランス語和訳の技法』白水社 田村毅・塩川徹也編『フランス文学史』東京大学出版会 D. モルネ著，市川・遠藤訳『十八世紀フランス思想』大修館 桑原武夫著『ルソー』岩波新書 高橋安光著『ヴォルテールの世界』未来社
評価方法		前期・後期の定期試験のほか，授業参加の熱意，積極性についても評価する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文学講読　2　(94年度以降) フランス語講読　5　(93年度以前)	担当者名	井村順一

講義の目標		19世紀の作家ギュスターヴ・フロベールの中編小説を講読する。
講義概要		演習形式で授業を進め，作品の構成を検討し，同時にフランス語の読解力を養う。
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	
評価方法		各学期末に訳読を主体とする筆記試験を行う予定。これに授業への参加度を加味して評価する。
受講者に対する要望など		受講者は25名程度とする。

科目名	フランス文学講読　3　(94年度以降) フランス語講読　6　(93年度以前)	担当者名	江　花　輝　昭

講義の目標		各種ヴィデオ・カセット教材を用いて，耳と目による総合的なフランス語聴解能力の向上を目指します。教材の内容は主に日常生活に根ざしたドキュメンタリー，インタヴュー形式のものです。
講義概要		はじめは比較的易しいものから扱い，次第にレヴェルの高いものへと移行します。後期にはテレビのニュース等も扱う予定です。一つの教材を2～3回かけて終了し，最後に必ず小テストを行います。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法		小テストによる平常点に加えて，前後期2回の定期試験も行い，総合的に評価します。
受講者に対する要望など		平常点が重視されますので，小テストをきちんと受けないと単位がとれません。4年生にはお勧めしません。第一回目の授業時にテストを行い，受講者を制限するかもしれませんので，必ず出席して下さい。

科目名	フランス文学講読　4　(94年度以降) フランス語講読　9　(93年度以前)	担当者名	筒井伸保

講義の目標	19世紀の散文作家プロスペール・メリメの短篇集を読んで，フランス語の読解力の向上をはかると共に，短篇小説の構成法について考えてみたい。イキのいいメリメの文章を読んで，フランス語の散文のリズムを味わってもらいたい。	
講義概要	毎回，4・5人の人に訳を担当してもらう（前の回に指名する）。	
使用教材	テキスト	Mérimé, *Mateo Falcone*, éd. Jean Balsamo, Le Livre de Poche classique
	参考文献	
評価方法	毎回の授業の参加度（予習の程度）と，定期試験による。	
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文学講読　5　(94年度以降) フランス語講読　10　(93年度以前)	担当者名	根本祐徳

講義の目標		Alain-Fournier の小説 Le Grand Meaulnes を読みながら，テキストの読解力をつけること。
講義概要		夢と現実が交錯する不思議な空間をさまよいながら，Alain-Fournier の世界を味わいましょう。
使用教材	テキスト	Alain-Fournier; *Le Grand Meaulnes*, le livre de poche
	参考文献	
評価方法		前・後期各1回のテストと授業への参加度によって評価する。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文学講読　6　(94年度以前) フランス語講読　14　(93年度以降)	担当者名	M. 水林

講義の目標		Se lancer dans la lecture de textes littéraires sans appréhension et surtout sans dictionnaire francais-japonais.
講義概要		Cette année nous choisissons trois oeuvres publiées récemment: *Le Grand cahier*, le premier roman en français de Agota Kristof, femme écrivain hongroise résidant en Suisse. Ce texte écrit avec des mots de tous les jours, un style d'une très grande simplicité nous parle de la cruaute de la guerre à travers l'histoire de deux enfants. *L'OEil du loup* de Daniel Pennac. Texte choisi dans la littérature enfantine. L'histoire d'un loup borgne et d'un petit garçon à l'oeil fermé qui tout en se regardant fixement l'un l'autre se racontent leurs aventures, leurs joies, leurs malheurs. *Le Tablier bleu* de Martine Laffon. Les pensées de Louise arrivée au seuil de la vieillesse. Chaque semaine nous lirons ensemble les premières pages de ces trois textes. Les participants au cours poursuivront seuls la lecture de ces trois livres.
使用教材	テキスト	Photocopies.
	参考文献	Un dictionnaire français. Par exemple, le *Dictionnaire du français Langue étrangère niveau II*, ou bien le *Dictionnaire du français contemporain.* Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadaîshuppansha.
評価方法		Deux rapports à remettre dans l'année.
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会概論（94年度以降）	担当者名	根本祐徳

講義の目標	これからフランス語，フランス文学，フランス文化を学ぼうとする学生が，フランスとはどんな国であるのか，フランス人とは？　フランスの文化の特質とは？　等々を考えていく上で是非とも必要な基礎的知識を手に入れ，一層，フランス語，フランス文学，フランス文化に興味を示すようになればこの講義の目標は達成される。	
講義概要	講義はフランスの国とフランス人，フランスの地理と歴史，フランスの文化，フランスの生活の四つの部分からなる予定で，とりわけフランスの文化が中心になるはずである。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	前後期のレポートと後期のテストによって評価する。	
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	フランスの国家
2	フランス人
3	フランスの地理
4	パリの地図を読む
5	フランスの歴史
6	フランスの歴史
7	フランスの歴史
8	フランスの文化―美術
9	フランスの文化―建築
10	フランスの文化―文学
11	フランスの文化―文学
12	フランスの文化―文学
備考	

後期

週	主要テーマ
1	フランスの文化―文学
2	フランスの文化―思想
3	フランスの文化―思想
4	フランスの文化―音楽
5	フランスの文化―言語
6	フランスの文化―映画
7	フランスの文化―写真
8	フランスの生活―教育
9	フランスの生活―料理とワイン
10	フランスの生活―ファッション
11	フランスの生活―ジャーナリスム
12	
備考	

科目名	フランス事情	担当者名	藤田朋久

講義の目標		＊フランスの社会や文化の特質を幅広く検討する。
講義概要		本講義は複数の担当者によって行われます。政治・経済から生活・文化にいたる様々な分野について，毎回具体的な問題をとりあげながら検討します。
使用教材	テキスト	特定の教科書は用いませんが，適宜プリントなどを配布します。
	参考文献	・菅野昭正ほか編『読む事典フランス』三省堂，1990年刊 ・新倉俊一ほか編『事典現代のフランス（新版）』大修館書店，1985年刊 ・Gérard MERMET, *Franscopie 1993*, Larousse, 1992. ・その他の文献については教室で指示する。
評価方法		レポート，出席回数など。
受講者に対する要望など		講義スケジュールや評価方法について，第一回目に説明を行いますので，受講希望者は必ず出席すること。

科目名	フランスの地誌	担当者名	伊藤幸次

講義の目標		日本と同様，フランスの領土は，変化に富んだ地理的空間の組み合わせからできています。しかしその領土の現状は，とりわけそこに住み着き，それを変化させ整備して来た人間達の産物です。所有者が資産を管理するように，国と国民はこの集団的遺産を管理せねばなりません。そのあり方についての知識を，日本人向けでなくフランス人のためにつくられ，実際に使用されている教材を通して，彼らと共有するのが目標です。
講義概要		歴史を通じて，変化に富んだ地理的集合体が領土を形成し，どのように国民国家を形成したのか。自然条件の複雑さが比較的狭い国土の中にどのように相異なる環境を生み出しているか。フランスは地下のみならず豊かな植物および水産資源に恵まれているが，それらはどう管理されているか。人口の集中と過疎化が及ぼす生活環境への影響はどんなものでどう管理せねばならないか，これらをフランスの高校2年生用人文地理の教科書を主教材に，各都市紹介のヴィデオを副教材にしながら検討します。また各種ガイド・ブックや地図などを使って，中期・短期の旅行の仕方，計画の立て方なども練習します。
使用教材	テキスト	*GÉOGRAPHIE Ire*, Hachette, Paris, 1994.
	参考文献	Vidéo-visite, Guides Michelin verts et rouges, Cartes Taride など。
評価方法		平常点とレポートを併用。
受講者に対する要望など		テキストはかなり高価で返品のきかない性質のものです。売れても担当者には何の利益もありませんが，購入しない人は登録しないで下さい。授業の際チェックします。

年間講義予定

期

	主要テーマ
1	人口が5万から20万位の，日本の地方都市に住んだり，旅行したりしたことがありますか。日本中何処へ行っても，正面だけ飾って本体はカラートタン張りの商店，中途半端で周囲との統一など考えていないビル，乱立する電柱と縦横に張りめらされた電線，観光地では景観を破壊しそうなホテルやけばけばしい看板，歩道を占拠する自販機や大音量で流される低俗な音楽の暴力などに出合うでしょう。歴史や文化をじっくり味わわせてくれるもの，平均より少しばかり知的な旅行者や住民を満足させてくれるものが明らかに欠けています。フランスのこの程度の都市には反対に一通りのものがそろっています。街並みは統一され，庭や住居の保全にも気を使い，コクのある郷土料理やワインが自己主張しています。フランス人は博物館狂で，何処でも鑑賞に耐えるものを展示しようと競っていますし，映画や演劇・コンサートなども欠かせません。このフランスの相対的な豊かさと日本の貧しさの差はどこから来るのでしょうか。私は19世紀の植民帝国時代にその鍵があるとにらんでいます。日本が2～30年で達成した都市化を，ヨーロッパは数倍かけて行う余裕があったと言えます。日本でも高度成長の間，多くの投資をしましたが，威圧的な市役所や主な催しがカラオケ大会である文化会館やまともな作品が一つだけの美術館などが目立ちます。バブルが去った今，日本でも伝統芸能や文化遺産を守り育てて行こうとする気運が感じられるのはうれしいことですが。 フランスでもすべての都市が均等に発展しているのではありません。公共施設が人口の割に最も不足しているのはあの世界で最も美しいステンド・グラスを持つカテドラル（司教座教会）のあるシャルトル。交通の便に恵まれ，広大な小麦畑の広がるボースの大平原に位置するこの町は，本来豊かで，特に宣伝せずとも観光客や巡礼は絶えず，市民達はのんびりと生活を楽しんで来たのでしょう。おかげで，文化・スポーツ施設はほとんどなく，街に住む若者達ははなはだ不満です。反対に，最も整備されている都市はアルプスの山ふところに抱かれた湖のほとりにあるアネッシーです。もともと物産の少ない貧しい地域にあって，観光やスキー，電力を利用した工業などに頼らざるを得ず，積極的に努力せざるを得なかったこの町は，ヨーロッパで最も美しく花で飾られた公園があり，あらゆる文化・スポーツ施設をもち，欠けているのは十分な収容能力のある国際会議場だけです。 こんな事情を都市紹介ヴィデオを見ながら観察しましょう。映像は言葉よりもはるかに多くを物語ります。聞き取りは殆ど不可能でしょうが，その場で要旨の翻訳と解説をしますから心配は要りません。 次に主教材の内容を紹介します。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	フランスの国土についての概説。地形・資源・生活環境など。大西洋岸地域・北アルプス地方。
2	世界システムの中のフランス。中規模大国としての国際関係。フランスの地政学的位置。フランス語圏の拡がり。
3	フランスの住民と社会。人口・都市・過疎化について。フランスにおける移住者。都市および地方の人口推移。
4	フランスの産業。農業・工業・サービス業およびレジャー観光産業。フランス企業の国際戦略。フランスの商業港。
5	フランスの国土構成。その構造的能力。国土開発。交通の地域の発展。
6	パリとその直接影響圏。フランスの首都・国際的中心地パリ。イール・ド・フランス地方。パリとセーヌ川。
7	北部及び北東部。経済的停滞。ヨーロッパ中心地としての位置の確保。ロレーヌ地方。
8	大南東部。ヨーロッパの大交差路。リヨンと大南東部諸地方。
9	西部および南西部。先進性に富む諸地域。大西洋弓状地域と中央山地。
10	遠隔地のフランス。世界に拡がる列島状のフランス領土。変革期にある諸地域。
11	以上を適宜抜粋しながら説明します。
12	
備考	

科目名	フランスの歴史	担当者名	藤田朋久

講義の目標		＊フランス史の基本的な知識を修得する。
講義概要		フランス史の概説講義。前期の最初の六時間を使って，古代から近代までの概観をおこないます。その上でさらに「中世」，「アンシアン・レジーム」，「19 世紀」の各々について六時間づつテーマを絞った講義をおこなう予定です。昨年度までとは違って，各時代の概観は最小限にとどめるつもりですので，各自で下記の参考書などを読むことが必要となります。
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	・井上幸治編『世界各国史 2 ：フランス史（新版)』山川出版社 ・木村尚三郎，志垣嘉夫編『概説フランス史』有斐閣 ・柴田三千雄，樺山紘一，福井憲彦『世界歴史大系：フランス史』全三巻，山川出版社 ・河野健二『フランス現代史』山川出版社 （その他の文献は教室で指示する）
評価方法		レポート，筆記試験，出席など。
受講者に対する要望など		第一回目の授業には必ず出席してください。

科目名	フランスの思想（94年度以降） フランスの哲学（93年度以前）	担当者名	若森栄樹

講義の目標		今年はフランスの現代思想について述べます。戦後のフランスではサルトルの「実在主義」から，フーコー，バルトなどに代表される「構造主義」，そして「構造主義」以降現在まで続いているポスト構造主義の流れがありますが，これらについて概説する予定です。
講義概要		「実存主義」「構造主義」および「ポスト構造主義」の流れを，文学，人類学，精神分析などにも触れつつ追っていきます。カント，ニーチェなど，それ以前の思想家との関連についても触れます。出来るだけ諸君の身近な問題と関連づけて話したいと思っています。
使用教材	テキスト	未定。授業の際指示する。
	参考文献	未定。授業の際指示する。
評価方法		前後期2回のレポートにより評価を行なう。
受講者に対する要望など		現代思想に興味をもっている人なら誰でも歓迎。本を読み，考える習慣を身につけていきたい。

科　目　名	フランスの美術	担当者名	前　川　久美子

（後期完結）

講義の目標		フランスおよび西洋美術のいくつかのテーマに関して、実際の作品にあたり、大づかみに把握する。
講義概要		実物を見られる作品を中心に、その背景や周辺の作品について理解する。「講義」のほか、聴講者による発表、欧文テクストの講読なども取り入れてゆく。 3，4週に1つずつ、3ないし4つ程度のテーマを取り上げる予定で、1つは「19世紀フランス絵画」を考えているが、他は展覧会の開催を調べた上で、開講時に決定する。
使用教材	テキスト	テクストおよび参考書については開講時に指示する。
	参考文献	
評価方法		平常点＋テスト
受講者に対する要望など		備考：秋学期からの開講につき、変更もあり得る。 語学に関しては未修者（フランス語科以外の学生）にも充分配慮する。

科目名	フランスの音楽	担当者名	松橋麻利

講義の目標		フランスの音楽と日本を含めた他の国の音楽とをつねに比較しながら，フランス音楽・芸術，さらにはその文化の特徴の一端に触れ，理解すること，そしてそこから自国の文化や自分を考えていく手がかりをつかむことを目標とする。
講義概要		今年度は，西洋音楽史上でフランスが主導となった時代やジャンルをピックアップし，その周辺の社会背景や他国の状況などを視野に入れながら，中世・ルネサンス・バロック・古典・ロマン・19世紀末というぐあいに年代順に取り上げていく。進度によっては現代も入る可能性あり。 年間講義予定は，年度始めのガイダンスのときに学生に渡す。
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	千蔵八郎ほか著『基本音楽史』(1968) マイクル・ハード著『西洋音楽史入門』(1974) 寺西春雄著『音楽史のすすめ』[音楽選書] (1983) ジュリアン・ラシュトン著『古典派音楽小史—グルックからベートーヴェンまで』(1995) ポール・ヘンリー・ラング著『西洋文化と音楽』(上・中・下) (上記はいずれも音楽之友社刊)
評価方法		前・後期各1回実施する試験により評価し，それに出席回数も加味する。
受講者に対する要望など		受講者は，自分にとって未知の音楽に対しても積極的な姿勢で取り組んでほしい。また授業以外でもできるだけ多くの音楽を聴くようにこころがけること。

科目名	フランスの演劇	担当者名	江花輝昭

講義の目標		あなた，恋愛してますか。恋愛したことありますか。恋愛したいですか。恋愛好きですか。嫌いですか。恋愛で悩んだことありますか。恋愛って何だろうと考えたことありますか。考えたことのある人もない人も，恋愛道の達人にして，恋愛心理を軽やかに，細やかに分析してみせるマリヴォーおじさんと一緒に，フランス式恋愛道を勉強してみませんか。この授業では，古風でありながら（18世紀！）それでいて現代人も妙に納得してしまう，マリヴォー（1688—1763）の魅力的な喜劇を通して，フランス人の恋愛心理，ひいては対人関係心理の秘密に迫ります。
講義概要		今年度はマリヴォーの初期傑作戯曲のひとつ，「二重の不実」（1723）を取り上げます。あれほど固く愛を誓い合った筈なのに，ちょっとした口車に乗せられた若い男女が，それぞれ別の相手に惹かれていき，めでたく二組のカップルが誕生するお話です。マリヴォーは，とりわけ微妙な心理のひだひだを，エレガントな言葉にのせて表現することを得意としました。時として，登場人物に対する作者の優しい無慈悲さが感じられないでもないその台詞は，現代フランス人にも通じる，当時の上流人士たちの（われわれ日本人とは明らかに違う）心の動きをうまく表現しています。授業では，戯曲の筋を追いながら順を追って細かい分析を行った後で，総括としてこの劇からくみ取れる教訓について考えます。
使用教材	テキスト	Marivaux *La Double Inconstance*
	参考文献	
評価方法		学年末にレポートを提出してもらい，主にそれで評価しますが，レポート提出の権利を一定の出席率を満たした人のみに限定します。
受講者に対する要望など		授業に出席することがまず必要です。4年生であろうと考慮しません。テキストをまず自分できちんと読み（18世紀のフランス語です），その上で自分の頭で考える意欲と能力を持った人を求めます。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	授業は原則として講義形式で行います。前期では，まずマリヴォーの伝記的事実を押さえ，演劇史上における彼の位置を確認した後に，具体的な作品分析に入ります。ヴィデオも併用する予定です。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	後期では，前期の内容をまとめた後で作品分析を継続します。一通り作品の細部分析が済んだら，総括として作品全体から抽出されてくるテーマを，特に対人関係心理に焦点をあてて考察します。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランスの政治	担当者名	井上スズ

講義の目標		現代フランスの政治の仕組みを理解させ，またフランスの政治の基底にあるフランス人の思考行動様式への関心を喚起することを目標としている。
講義概要		講義前半は，第5共和政の政治制度を，後半では現代フランス外交を扱う。政治制度については，講義予定に示すように，大統領，政府，議会（政党・選挙を含む）等一通り制度の概要を解説するが，これらの機関の相互関連の中で，いわゆる大統領の優位がどのように打ち出されるのかがフランス政治理解の鍵である。講義後半の外交については，主としてミッテラン外交を扱うが，ミッテラン政権の後半部分になるべく重点をおくこととする。
使用教材	テキスト	
	参考文献	・奥島孝康・中村紘一編『フランスの政治』早稲田大学出版部 ・J・ヘイワード『フランス政治百科』上・下　勁草書房 その他適宜授業中に指示する
評価方法		前期・後期，それぞれ課題を示して，レポートを提出させる。
受講者に対する要望など		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	第五共和政の成立。憲法の精神，政治ゲームのルールとしての憲法と憲法解釈。
2	同上
3	大統領・政府・行政システム
4	同上
5	同上
6	同上
7	議会（制度の特色）
8	選挙制度と投票行動
9	政党と選挙
10	政治と司法
11	政治と司法
12	結び（第五共和政の政治システムの特色）
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	外交政策形成の手段としての組織と人事
2	同上
3	対アフリカ政策
4	同上
5	同上
6	対中東政策
7	軍事力・核兵器と外交
8	湾岸戦争とフランス外交
9	同上
10	ヨーロッパ統合へ向けて（独仏枢軸）
11	ヨーロッパ統合へ向けて（マーストリヒト条約）
12	ヨーロッパ統合へ向けて（人道援助外交）
備考	

科目名	フランスの経済	担当者名	千代浦　昌　道

講義の目標		フランス経済の歴史と現状を学び，その知識を国内・国外の経済・社会問題についての正しい見方・考え方に役立てること。
講義概要		前期は，フランス経済の現状の概観を説明した上で，現在のフランス経済の歴史的背景を形成している主に18世紀の産業革命以後のフランスの経済発展史について講義する。 後期は，特に第二次世界大戦以後のフランス経済の成長と変遷を，企業国有化と経済計画の流れに沿って説明する。
使用教材	テキスト	Japan 1996 : An International Comparison（1995，経済広報センター）
	参考文献	・清水貞俊編 『フランス経済を見る目』（1984，有斐閣） ・井上幸次編 『フランス史（新版）』（1974，山川出版社） ・原　輝史編 『フランスの経済』（1993，早稲田大学出版部）
評価方法		前期，後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。
受講者に対する要望など		日本語，外国語を問わず，新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

前期

週	主　要　テ　ー　マ
1	(1) 授業の進め方，テキスト。参考文献，成績評価方法などについての説明 (2) 最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識
2	(1) 簡単な経済専用語の基礎知識，(2) フランス経済の基礎データの説明 (テキスト「Japan 1996 : An International Comparison」を持参すること)
3	近代におけるフランス経済の発展：経済発展と工業化についての基礎知識
4	近代におけるフランス経済の発展：フランスの産業革命の特徴
5	近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史1 (旧体制下の経済と政治)
6	近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史2 (フランス大革命とナポレオンⅠ世の時代)
7	近代におけるフランス経済の発展：農業と産業革命
8	近代におけるフランス経済の発展：工業化と人口問題
9	近代におけるフランス経済の発展：天然資源と工業化
10	近代におけるフランス経済の発展：国内産業の保護，植民地経営と工業化
11	近代におけるフランス経済の発展：金融制度の発展発展と工業化
12	近代におけるフランス経済の発展：工業化の社会的諸条件
備考	

後期

週	主　要　テ　ー　マ
1	戦後フランスの経済：戦後フランスの政治と経済の変遷〔年表配布〕
2	戦後フランスの経済：経済計画と第1次国有化
3	戦後フランスの経済：ドゴールとポンピドゥーの経済政策
4	戦後フランスの経済：ジスカールデスタンとバール・プラン
5	戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計1 (テキスト：Japan 1996 : An International Comparison)
6	戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計2 (テキスト：Japan 1996 : An International Comparison)
7	戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計3 (テキスト：Japan 1996 : An International Comparison)
8	戦後フランスの経済：ミッテラン大統領時代の経済政策1 (第2次国有化と社会主義政策) 〔資料配布〕
9	戦後フランスの経済：ミッテラン大統領時代の経済政策2 (保革共存と民営化) 〔資料配布〕
10	戦後フランスの経済：ミッテラン大統領時代の経済政策3 (欧州共同体とフランス経済)
11	戦後フランスの経済：シラク大統領の経済政策
12	戦後フランスの経済：まとめ (失業，インフレ，貿易，フランの地位など)
備考	

科目名	フランス文化・社会各論　(94年度以降) フランス文化特殊講義　(93年度以前)	担当者名	青木一郎

講義の目標		20世紀美術の出発点とも云えるダダ・シュルレアリスム芸術について勉強します。現代美術は解りにくいとよく云われます。その原因の1つはシュルレアリスムにあると考えられています。そこで，ダダ・シュルレアリスムの美術をスライドなどを使って，なるべく解り易く解説して行きたいと思います。
講義概要		ダダ・シュルレアリスムについて，その歴史的背景，変遷，そしてその影響について解説します。美術に関する講義ですから，個々の作品についてスライドを見ながら解説を加えて行きます。その他，ダダ・シュルレアリスム関係の展覧会や映写会などが行われる時には適時に指示して学生諸君に実物を見てもらうようにしたいと思います。 前期はダダ運動について，後期はシュルレアリスムを中心としてお話いたします。
使用教材	テキスト	なし，講義の初めにその時間のプリントを配布します。
	参考文献	ハンス・リヒター『「ダダ」—芸術と反芸術』　(美術出版社) ケネス・クウツ・スミス『ダダ』　(PARCO) モーリス・ナドー『シュルレアリスムの歴史』　(思潮社) カーディナル，ショート『シュルレアリスム』　(PARCO)
評価方法		評価は，前期後期とも定期試験期間中に行うテストによって決定する。
受講者に対する要望など		なるべく欠席をしないこと。やむを得ず欠席した時は，次の講義の時までにプリントを取りに研究室に来ること。

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	前期はダダのお話をしますが，チューリッヒ，ニューヨーク，パリ，ベルリンなど，各地域のダダ運動の歴史的重要性が異なりますので，必ずしも各地域に関して一回の講義というわけには行かないと思います。初回は勿論一年間の講義をどのように行うか，という話から始めますが，それに続いてダダの発生した歴史的背景の解説も行います。二回目からは，チューリッヒ，ニューヨーク，ベルリン，ハノーヴァー，ケルン，パリと各地のダダについて見て行きます。前期の終わりには，ダダについて綜合的に評価し，その影響についてもお話しします。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	後期はシュルレアリスムについて講義することになりますが，初回は，ダダの行き詰まりから，どのようにしてシュルレアリスム運動へ転回して行ったか，という話から始めましょう。2回目以降は，シュルレアリスム運動に加わった芸術家達は，それぞれ非常に個性の強い人々でしたし，またこの運動が専らパリを中心としていましたので，毎回一人づつの作家の話をする，という形をとりたいと思います。最終回は勿論，全体のまとめのお話をいたします。
2	
3	
4	
4	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス文化・社会各論　B—1　(94年度以降) フランス文化特殊講義　B—1　(93年度以前)	担当者名	井上兼行

(前期完結)

講義の目標		
講義概要	フランスは，特に十七世紀初頭以降，イギリスと争いながら，カリブ海の島々を植民地化した。そしてさとうきびのプランテーションを開き，アフリカ黒人奴隷を労働力として使い，栄光の一時期をつくりあげた。同時に，それと平行して，場合によって本国の支配とは関係なく，多くの島々に植民もした。このような歴史的経緯から，フランスは現在のカリブ海域の社会と文化に大きな影響を与えている。この講義では，まずフランスによるカリブ海域の支配・植民の歴史を述べ，次いでフランス文化の影響を受けた言語，社会，宗教などの内容を述べてゆく。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	随時紹介する。
評価方法	未定。受講生の数などにもよる。	
受講者に対する要望など	私の「比較文化論特講」(本年度のものも，昨年度までのものも) とは若干重複する個所がある。	

科目名	フランス文化・社会各論　B—2　(94年度以降) フランス文化特殊講義　B—2　(93年度以前)	担当者名	佐藤正之

(後期完結)

講義の目標	講義題目：「十八世紀フランス思想」 十八世紀フランス思想の研究	
講義概要	十八世紀フランスの《Philosophes》(Montesquieu, Voltaire, Diderot et encyclopédistes, J.-J. Rousseau, Condillac, Condorcet, etc) の思想を様々な面からとりあげて講義する。自然と人間、社会制度と個人、自由と平等、寛容思想、人類の進歩と幸福など（詳しい講義予定は最初の授業時に示す）	
使用教材	テキスト	プリント（教室で随時配布）
	参考文献	
評価方法	レポートによる。	
受講者に対する要望など		

後期

週	主　要　テ　ー　マ
1	序説、Siècles des Lumières と Philosophes. 年間講義予定—参考文献
2	Philosophes の先き駆け、Pierre Bayle の寛容論
3	合理主義と経験論
4	無神論と唯物論
5	進化論・進歩の思想
6	（未定）
7	社会制度と個人
8	自由平等
9	自然と人間
10	幸福論
11	（未定）
12	結び
備考	付記：以上はとりあげるテーマの予定で順序は変更されるかもしれません、初回の授業で修正するつもりです。

科目名	フランス文化・社会講読　1　(94年度以降) フランス語講読　3　(93年度以前)	担当者名	井上スズ

講義の目標		フランス語の文を正確に訳すように努めるとともに，内容を十分把握すること。更にその内容がフランス外交上の，また国際政治上のどのような問題に対応しているのかを理解させる。
講義概要		昨年にひき続き第二次世界大戦後のフランス外交の基本的特色を簡潔にまとめたテキストとして，下記の教材を用いる。昨年は第四共和政を一応終えたので，本年は，第五共和政のフランス外交とくにド・ゴール外交が中心となる。
使用教材	テキスト	Anne Dulphy, La politique extérieure de la France depuis 1945（プリント配布）
	参考文献	
評価方法		授業中受講者の担当した部分についての訳をはじめとする理解度，その他積極性等を評価の基礎とする。更に前期・後期の試験の成績も加えて綜合的に評価を出す。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会講読　2　(94年度以降) フランス語講読　4　(93年度以前)	担当者名	井上　たか子

講義の目標		テクストは，フランスの学校教育における男女差別について書かれたものです。テクストを直訳しただけでは，内容を理解したとは言えません。文法や語彙の知識を復習し，学校制度に関する知識を補いながら，どのような日本語におきかえればいいか考えていきます。
講義概要		履修者に，それぞれ一ページ程度の文を和訳してもらい，それを添削するかたちで授業をすすめます。
使用教材	テキスト	Allez les filles!（「ガンバレ女の子！」）Ed. du Seuil テクストはプリントを用います。
	参考文献	
評価方法		平常点重視。出席重視。（欠席・遅刻・早退は減点します。）年2回，レポート提出。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会講読　3　(94年度以降) フランス語講読　7　(93年度以前)	担当者名	小石　悟

講義の目標		Compréhension orale (聴解) の能力を高める。 書かれたテクストはかなり難しいものが読めるのに、音になるとごく簡単なものでさえも理解出来ない人がときどきいます。この授業では自分の弱点がどこにあるかを見つけることを手助けし、学生自身がフランス語学習の自律性を身につけることを目指します。
講義概要		単音の区別、語彙力の増加、compréhension globale (全体的な理解)、compréhension analytique (分析的な理解)、スピードに慣れる練習など様々な方法を使いながら、普通のスピードのフランス語を理解出来るようにしたいと思います。各週の授業内容は受講者のレベル、要望、進度等を考慮の上決定します。前期は既存の教材，後期はニュースのテープ・ビデオを使う予定です。
使用教材	テキスト	補助教材として適宜カセットを準備します。
	参考文献	
評価方法		実際の訓練を行うので出席重視。評価はテストによる。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会講読　4　(94年度以降) フランス語講読　8　(93年度以前)	担当者名	竹内久雄

講義の目標		学生諸君がこれから自分でフランスの文化ないしフランス社会について様々な角度から考えるための手がかりを提供したい。そのために現在のフランスで進行している文化的社会的な事象に色々なメディア（新聞、雑誌、テレビ、通信ネットなど）のフランス語を通して接する。同時にそれらの事象の歴史的な参照事項を読むことで、現代フランスを広くフランス近代の中で捉えることを試みる。フランス語学習としては、ある程度の量の文章や発話の要旨を限られた時間の間に把握する練習を行う。
講義概要		大きなテーマ区分として、(1) 情報ないしメディア（新聞の誕生からインターネットまで)、(2)「美」の享受の社会性（官展［サロン］から映画館，マルチメディアまで)、(3) フランスにおけるナショナルなもの（ラ・マルセイエーズからマーストリヒト条約まで）を考えている。フランス語読解力の向上については、構文把握の訓練（いかにして辞書を引きまくることなしに文を理解するか）を体系的に行いたい。
使用教材	テキスト	原則としてプリントを用いる
	参考文献	阿部良雄　『群衆の中の芸術家』（中公文庫） 鹿島　茂　『デパートを発明した夫婦』（講談社現代新書） 鹿島　茂　『新聞王伝説』（筑摩書房） 吉見俊哉　『博覧会の政治学』（中公新書） 山田登世子　『メディア都市パリ』（ちくま文庫） 浅井香織　『音楽の〈現代〉が始まったとき』（中公新書）
評価方法		読解の試験，フランス語テキストの要約と論評のレポート、平常授業への参加によって評価する。
受講者に対する要望など		フランスの文化・社会に対して、日本語による間接情報でなく原語で書かれ語られた1次資料で接することが当たり前になるよう、色々なタイプのフランス語のテキストに貪欲に挑戦してほしい。

科目名	フランス文化・社会講読　5　(94年度以降) フランス語講読　11　(93年度以前)	担当者名	藤田朋久

講義の目標		＊　聖人・聖遺物崇拝を通じて，中世フランス社会についての理解を深める。 ＊　史料分析の実例に触れる。
講義概要		昨年にひきつづき，今年も聖人・聖遺物崇拝に関する論文を読みます。最初にジャン＝クロード・シュミットによる概括的な記事を読み，そのあとでより個別的なテーマ（vol des reliques, quêtes et voyages de reliques, etc.）に関する論文を読みます。
使用教材	テキスト	Jean-Claude Schmitt, “On se bat pour des reliques!”, *L'histoire*, 135, 1990, pp. 24-27 ほか，プリント。
	参考文献	・渡辺昌美『フランスの聖人たち』大阪書籍 ・　同　『中世の奇蹟と幻想』岩波新書 ・その他の文献は教室で指示する。
評価方法		前期・後期レポート，出席回数など。
受講者に対する要望など		受講者数を制限することもあり得るので，第一回目の授業に必ず出席して下さい。

科目名	フランス文化・社会講読　6　(94年度以降) フランス語講読　13　(93年度以前)	担当者名	横地卓哉

講義の目標	―― *Le Monde* を読む―― 新聞記事を正確に読めるようにする。	
講義概要	フランスを代表する新聞 *Le Monde* を読みます。フランス語のレベルとしてはかなり高度で，決して平易な文章とは言えませんが，文法事項に注意し，いろいろな知識を総動員してみんなで読み解いていきたいと思います。	
使用教材	テキスト	*Le Monde*（プリント）
	参考文献	
評価方法	前期・後期の定期試験および平常点などで評価する。随時ノート等の提出を求める。	
受講者に対する要望など	受講者数を30名程度に制限します。受講希望者は第一回めの授業に必ず出席すること。	

科目名	フランス文化・社会講読　7　(94年度以降) フランス語講読　15　(93年度以前)	担当者名	Ph. Vanney

講義の目標		Améliorer la compréhension des textes à contenu politique, sociologique ou économique.
講義概要		Au début de l'année, après consultation des étudiants, choix d'au moins deux thèmes de réflexion (un par semestre), si possible－mais ce n'est pas obligatoire－en rapport avec les relations internationales. Méthode : — Cours en français, Pas de traduction. — Approche globale dans un premier temps : comprendre le sens général, le développement logique des idées. Répondre à des questions données au préalable. — Etude détaillée ensuite sur le plan lexical et grammatical. — Les étudiants doivent tenir un carnet de vocabulaire des mots qu'ils ne connaissent pas.
使用教材	テキスト	Photocopies: articles de journaux, de revues; extraits d'études plus longues.
	参考文献	*Le Monde. Le Monde Diplomatique.* *Actuelles* d'Albert Camus. Journaux français pour les lycéens. Journaux japonais.
評価方法		Examen à la fin de chaque semestre: explication de mots, de structures grammaticales et une petite composition.
受講者に対する要望など		Tous les étudiants doivent préparer à l'avance le cours.

科　目　名	フランス語学概論　1，2，3，4　(93年度以前)	担当者名	各担当教員

講義の目標		1年で学んだフランス語基礎文法の知識を復習しながら，さらに確かなものにする。
講義概要		この講義は新カリキュラムの「フランス語Ⅱ・文法」との合併授業になります。最初の授業には必ず出席し，各担当者からテキストや授業の進め方について説明を聞くようにして下さい。
使用教材	テキスト	各担当者による。
	参考文献	
評価方法		各担当者による。
受講者に対する要望など		